台大日本語文研究第 43 期
2022 年 06 月，頁 117-139
2022-03-25 收稿，2022-05-30 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP. 202206_(43).0005

關於日文母語話者的第三人稱代名詞使用傾向與容許度
—以是否有性別相關訊息的觀點分析—

陳嬿如*

摘要

日文的第三人稱代名詞在談話中使用頻率不高，且有不能使用於說話者不知道的對象上的使用限制（金水 1989、神崎 1994、田窪・木村 1997）。本研究以文脈中是否有性別相關訊息為分析觀點，自『多語言母語之日文學習者語料庫』的日文母語話者訪談對話資料中，收集日文母語話者使用的「彼」、「彼女」，並分析其使用傾向。另外，以問卷調查方式分析日文母語話者對於第三人稱代名詞的容許程度。結果顯示，日文母語話者在訪談對話裡使用的「彼」、「彼女」皆為說話者已知的人物，其中 80％以上的「彼」、「彼女」使用之前可觀察到文脈中曾出現性別相關的訊息。日文母語話者對於第三人稱代名詞的容許程度受到訊息屬於說話者或者聽話者，是否有性別相關訊息的導入，以及指示對象是否為上位者等因素影響。

關鍵詞：第三人稱代名詞、日文母語話者、使用傾向、容許程度、性別相關訊息

* 靜宜大學日本語文學系助理教授

臺灣大學學術期刊資料庫

A Study About Use and Acceptance of The 3rd Person Pronoun by The Japanese Native Speakers: Focus on The Information of Gender

Chen Yenju*

Abstract

About the Japanese 3rd person pronoun, it is said that the Japanese native speakers do not use it frequently in their conversation and it cannot be used to point someone whom speakers do not know（Kinsui1989、Kanzaki1994、Takubo・Kimura1997）.This study focused on the gender information. I analyzed the use of “彼(he)/彼女(she)” which appeared in the corpus called I-JAS. And by Using questionary survey, I investigated how do the Japanese native speakers accept a 3rd person pronoun. The results are as follow. In the interview,“彼(he)/彼女(she)” were used to refer to someone whom the speaker knows, and more than 80% were used after gender information. The acceptance of the Japanese native speakers for the use of the 3rd person pronoun was different from the knowledge of speakers and listeners, the gender information, and the instructions were superior or not.

Key words: 3rd person pronoun, Japanese native speakers, use, Acceptance, gender information

* Assistant professor of Department of Japanese Language and Literature, Providence University

臺灣大學學術期刊資料庫

日本語母語話者による三人称代名詞の使用傾向と容認度について
—性別に関する情報の有無から分析して—

陳嬿如*

要旨

日本語の三人称代名詞に関して、談話の中での使用頻度が高くないことや、話し手が知らない対象には用いられないなど使用制限があることが指摘されている(神崎 1994、金水 1989、田窪・木村 1997)。本研究は性別に関する情報の有無という観点から、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』における日本語母語話者のインタビュー発話資料に現れた「彼・彼女」を収集し、三人称代名詞の使用傾向について分析した。さらに、アンケート調査を用い、日本語母語話者の三人称代名詞に対する容認度を調査した。調査の結果、日本語母語話者のインタビュー発話資料内で使用されている「彼・彼女」は全て話し手が知っている人物であり、そのうち、8割以上の「彼・彼女」が使用される前に、直接的、もしくは間接的に性別に関する情報が導入されていたことがわかった。また、三人称代名詞の使用に対する日本語母語話者の容認度は、話し手・聞き手の知識状態、性別に関する情報の有無、及び指示対象が目上の人か否かによって異なっていることが明らかになった。

キーワード：三人称代名詞、日本語母語話者、使用傾向、容認度、
性別に関する情報

* 静宜大学日本語学科助理教授

臺灣人學學術期刊資料庫

日本語母語話者による三人称代名詞の使用傾向と容認度について
—性別に関する情報の有無から分析して—

陳嬿如

一、はじめに

三人称代名詞は普通、話し手と聞き手以外の第三者の人物を再び指示する時に用いられるが、日本語では、男性の場合は「彼」、女性の場合は「彼女」が使用される。複数の人物を指す際には「彼ら」、「彼女ら」、「彼女たち」[1]などの形式で用いられる。しかし、日本語の三人称代名詞に関しては、翻訳文や物語文では使用されているが、それ以外の場合、特に談話の中での使用頻度は高くないと言われている（日本語記述文法研究会 2009）。

三人称代名詞の使用について、先行研究では、話し手と聞き手の指示対象への知識状態に関わると指摘されている（神崎 1994、金水 1989、田窪・木村 1997）。

（1）A：田中さん、もう来られましたか。
　　B：一郎は、まだ。**彼**はいつも時間通りになんて来ないよ。
　　（日本語記述文法研究会 2009：18 より一部改変）

（2）A：田中君に会ったよ。
　　B：{田中って、どの田中のこと／それ、誰。／***彼**、誰。}
　　A：**??彼**は、今度入ったドイツ語の先生だよ[2]。
　　（田窪・木村 1997：141、143、一部改変）

（1）と（2）から、指示対象が話し手と聞き手のどちらかが知らない人物の場合、「彼・彼女」が用いられないという制限が示されて

[1] 以下、単数、複数を問わず、併せて「彼・彼女」と呼ぶことにする。なお、三人称代名詞は恋愛関係にある特定の相手を指す場合があるが、本研究は「彼氏」、「元彼」、「元彼女」などを分析対象から外した。

[2] 「?」「??」は不自然、「*」は誤用を表す。調査文以外の例文の正誤判定は引用文献に従う。

臺灣大學學術典藏資料庫

いる。それに関して、田窪・木村（1997）は、話し手の既知人物[3]であれば、一定の導入手続きを経てから、「彼・彼女」が使用できるようになると述べた。つまり、会話での「彼・彼女」の使用の可否は、話し手の既知人物であるか否かに加え、話題人物に対する導入手続きも関与しているということである。

インタビューにおける日本語母語話者の三人称代名詞の使用実態を検討した陳（2021）でも、調査対象者の日本語母語話者が話した「彼・彼女」はすべて話し手にとっての既知人物であること、及び「彼・彼女」が使用される前に、一定の導入手続きが観察されたことが報告されている。しかし、日本語母語話者の発話資料にあまり見られない用法だからと言って、直ちに不自然な用法とは結論付けられない。

本研究は先行研究で述べた要因を再検討した上で、それらの要因はどのように日本語母語話者の三人称代名詞に対する容認度に影響を与えるのかを明らかにしたい。

二、日本語の三人称代名詞「彼・彼女」についての先行研究

（一）話し手・聞き手の知識状態と導入手続き

金水（1989）では、日本語の三人称代名詞は話し手にとって指示対象が誰なのかわからない場合は使用できず、特定できる人物を表す場合にしか使えないと述べられている。神崎（1994）も、(3) B のように、話し手が知らない人物には「彼」が使えないと指摘している。

(3) A：昨日、ジョン・スミスに会ったよ。
　　B：だれですか。{***彼は**／その人は}。
（神崎 1994：8、一部改変）

それに対し、話し手が「彼」を使用する前に、自分の知識状態だ

[3] 本研究では会話の参加者の知識状態を考慮している際に、便宜上、話し手と聞き手が共通に知っている人物以外の場合を「話し手の既知人物（＝話し手が知っていて、聞き手が知らない人物）」と「聞き手の既知人物（＝聞き手が知っていて、話し手が知らない人物）」に区別して、呼ぶことにする。

けでなく、聞き手の知識状態を考慮する必要があると主張した研究は、金水（1989）、田窪・木村（1997）などがある。

（4）（＝（2）再掲）A：田中君に会ったよ。

B：{田中って、どの田中のこと／それ、誰。／***彼**、誰。}

A：**??彼**は、今度入ったドイツ語の先生だよ。

（田窪・木村 1997：141、143、一部改変）

（4）の A の発話から、指示対象が話し手の既知人物であっても、聞き手がその人物を知らなければ、依然として三人称代名詞を用いることができないことがわかった。

三人称代名詞の導入手続きについて、田窪・木村（1997）は以下のように説明している。

（5）a.その要素の存在　　（以下、「存在」と略称する）

b.その要素の名前　　（以下、「名前」と略称する）

c.その要素の対話の目的に関与的な属性

（以下、「属性」と略称する）

田窪・木村（1997）によれば、会話開始時に話し手が知らない人物に関しては、会話相手による導入手続きが終わっていても、「彼・彼女」を使用することができない。その一方で、話し手が知っている人物や話し手知識の人物であれば、一定の手続きを会話に導入すると、「彼・彼女」を使うことができるという違いが指摘されている。

このように、聞き手の知識状態を考慮に入れるかどうかで区別すると、会話参加者の知識状態と導入手続きとの関わりは次の表 1 にまとめられる。

表 1 で示されたように、話し手のみの既知人物に「彼・彼女」を用いて指示する前に一定の手続きが必要か否かは、神崎（1994）と金水（1989）、田窪・木村（1997）の指摘は一致していない。

臺灣大學學術期刊資料庫

表 1：三人称代名詞「彼・彼女」の使用に関する制限（筆者作成）

	話し手と聞き手の既知人物	話し手の既知人物	聞き手の既知人物
話し手の知識状態を考慮する（神崎 1994）	使用可能	使用可能	使用不可
話し手と聞き手の知識状態を考慮する（金水 1989、田窪・木村 1997）	使用可能	導入手続きが必要	使用不可

（二）指示対象の種類

話し手と聞き手の知識状態と導入手続きの他に、「彼・彼女」は使用する人の性質や指示対象の種類などによる違いも報告されている（Hinds（1975）、神崎（1994）、岩田（2013））。

Hinds（1975）では、アンケートを通し、297 名の日本語母語話者に三人称代名詞の使用習慣に関する調査を行った。その結果、若い年齢層の成人日本語母語話者は高校生より、女性は男性より、三人称代名詞の使用割合が高いことがわかった。さらに、指示対象の種類に関しては、社会的上位者（social superiors）、家族メンバー、及び公衆人物（public sphere）に対し「彼・彼女」があまり使用されないことが述べられている。

神崎（1994）と岩田（2013）の先行研究でも夫婦同士を除き、家族メンバーや目上の人を言及する際は、「彼・彼女」の使用が避けられるなど、三人称代名詞の使用傾向は指示対象の種類により異なる点において、指摘が共通している。

（三）コーパスによる使用実態の調査

以上の先行研究を踏まえ、日本語母語話者による三人称代名詞の使用実態を分析した研究は陳（2021）がある。

陳（2021）では、国立国語研究所のプログラムによって収集された『多言語母語の日本語学習者横断コーパス（以下、I-JAS と略称す

臺灣大學學術期刊資料庫

る)』[4]の 50 名の日本語母語話者（JJJ）のインタビュー発話資料を用い、三人称代名詞の使用実態を検討した。

その結果、インタビューを受ける側の日本語母語話者が使用した 61 件の「彼・彼女」はすべて話し手の既知人物であることがわかった[5]。

「彼・彼女」が使用される前の導入手続きを分析すると、最も多かったのは「存在＋属性（23 件）[6]」及び「存在＋名前＋属性（21 件）」が導入されてからの使用であった。このことから、日本語母語話者は自分が知っている話題人物でも、一定の導入手続きを経てから「彼・彼女」を使用している傾向があると言える。

また、三人称代名詞が使用される指示対象の種類について、映画、ドラマ、アニメ、漫画などの作品の登場人物は 30 件（49%）、友人・知り合いは 12 件（20%）、家族メンバーは 10 件（16%）、公衆人物は 5 件（8%）、社会的上位者は 2 件（3%）、その他は 2 件（3%）占めている。

物語の登場人物に対する「彼・彼女」の使用頻度が多く、先生などの社会的上位者に対しては使用頻度が少ないなどは、先行研究の指摘を一部支持する結果が示されている。

（四）先行研究の問題点

以上のように、日本語の三人称代名詞の使用に対し、様々な制限が述べられていた。しかし、導入手続きに関しては、田窪・木村（1997）では、「その要素の名前」は必須ではないと述べられていたが、どのような状態において、導入手続きが終わるのかは言及されていない。また、「その談話の目的に関与する属性」の定義が曖昧だという問題

---

4 国立国語研究所のプログラムにより、収集・公開された日本語学習者 1000 名の横断コーパスである（代表研究者：迫田久美子）。同じ課題を遂行した 50 名の日本語母語話者の資料も収録されている。

5 インタビュアーの日本語母語話者による「彼・彼女」の使用も 8 件観察されていたが、そのうち 2 件は「聞き手の既知人物」を指す用法であった。他の 6 件は聞き手と恋愛感情を持つ人を指す場合に使用された。本研究は調査対象者の日本語母語話者の発話資料のみ分析材料とする。

6 陳（2021）は指示対象（＝先行詞）の導入者を「話し手導入（22 件）」と「聞き手導入（1 件）」に分け、結果を集計したが、本研究は分けずに提示した。

臺灣大學機構典藏資料庫

点が残されている。

陳（2021）では、「存在＋属性」と「存在＋名前＋属性」が導入された状態を導入手続きが終わったと見ているが、話し手にとって既知であり、導入手続きが終わった人物であっても、すべてに「彼・彼女」が使用できるとは言えない。

また、コーパスの発話資料では、聞き手の既知人物に対し「彼・彼女」が使用されなかったと報告されたが、それは、インタビュー会話は主にインタビュアーが質問し、インタビューを受ける調査対象者が答える会話形式であるため、話題人物が調査対象者の既知人物に集中する可能性も考えられる。

さらに、指示対象の種類についても、コーパスに少ない、もしくは観察されていない指示対象に関しては、必ずしも容認度も低いとは限らないなどの問題点が挙げられる。

（五）本研究の視点：性別に関する情報の有無

日本語の三人称代名詞に男女の区別があることから、話し手はその人物が誰なのか特定できなければ性別もわからないため、「彼・彼女」が使用できないはずである。そのため、男性・女性という性別情報は「彼・彼女」の使用に大きく関わっていることが考えられる。

しかし、田窪・木村（1997）の「その要素の対話の目的に関する属性」は性別に関する情報もそうでない情報も含まれている。それに加え、性別に関する情報は、直接的に男性、もしくは女性という属性を述べる他に、話題人物の「名前」（例：男子名・女子名）や「存在」（例：家族の呼び方）などから、性別情報が分かる場合もある。

そこで、本研究は、田窪・木村（1997）の導入手続きとは別に、性別に関する情報の有無と「彼・彼女」の使用との関連性に焦点を当てることにする。

以下、（6）に示すように、直接的に性別に関する情報がわかる場合を「直接的な性別情報」と、間接に性別に関する情報がわかる場合を「間接的な性別情報」と示し、性別に関する情報が文脈からわからない場合を「性別情報なし」と呼ぶことにする。

臺灣人學學術期刊資料庫

（6）a. 直接的な性別情報

存在：指示対象の「存在」から性別がわかる場合

（例：親族名詞など）

属性：男性・女性という「属性」から性別がわかる場合

（例：男性、女性、女の子、男の子、女子大生、女優など）

b. 間接的な性別情報

名前：指示対象の「名前」から性別情報がわかる場合

（例：男子名、女子名、公衆人物の名前など）

話し手は自分の既知人物に対し、「彼・彼女」が使用される前に性別に関する情報が導入されているか、また、聞き手の既知人物でも、性別に関する情報がわかれば「彼・彼女」が使えるようになるかについて検討したい。

三、課題及び研究方法

（一）研究課題

日本語の三人称代名詞の使用制限については、話し手・聞き手の知識状態、導入手続きと指示対象の種類などに関与すると指摘があったが、「属性」に関する定義が曖昧であり、性別に関する情報の観点からも検討されていない。さらに、コーパスの分析の限界など、いくつか問題点が残されている。そのため、本研究は以下のように研究課題を設ける。

（7）課題 1：インタビューにおける日本語母語話者が使用した三人称代名詞はどのように性別に関する情報と関わるかを明らかにする。

課題 2：性別に関する情報の有無は日本語母語話者による三人称代名詞の容認度に影響を与えるかを明らかにする。

（二）研究方法

課題 1 に関して、本研究は陳（2021）と同様に、I-JAS から日本語

臺灣大學學術期刊資料庫

母語話者（JJJ）のインタビュー発話資料[7]を分析材料とする。

日本語母語話者のインタビューの発話資料での全出現語数は、フィラー、記号などを除き、203,054 語[8]ある中、インタビューを受ける側の日本語母語話者の「彼・彼女」の使用頻度は合計 61 件あった。それらが全て話し手の既知人物であったことは陳（2021）によって明らかにされている。

本研究の第四章から、インタビューの発話資料で現れた「彼・彼女」が使用される前に性別に関する情報が含まれているかに焦点を当て、日本語母語話者の三人称代名詞の使用傾向を再分析する。

課題 2 に関しては、日本語母語話者の「彼・彼女」の容認度は性別に関する情報の有無に影響されるのかを調べるために、自然から不自然までの五段階の自然さ判定アンケートを用い、調査を行う。

田窪・木村（1997）で述べられた通り、導入手続きが「彼・彼女」の使用に影響するとすれば、「存在＋属性」と「存在＋名前」の導入が終わった後の話し手の既知人物に対する「彼・彼女」の容認度は「存在」のみの場合より高いはずである。

その一方で、性別に関する情報が日本語母語話者の容認度に影響を与えたとすれば、「性別に関する情報」が含まれる調査文は、そうでない調査文より日本語母語話者の容認度が高いことが考えられる。

本研究は知識の所属を「話し手の既知人物」と「聞き手の既知人物」に区別した上で、性別情報の有無を「存在（性別情報なし）」、「存在＋属性（性別情報なし）」および「存在＋属性（直接的な性別情報）」に分けて、調査文を作成した。

先行研究では、指示対象の種類は「彼・彼女」の使用傾向に影響を与えると指摘されているが、本研究は性別に関する情報の有無を焦点に分析するために、指示対象を目上の「先生」[9]と目上以外の「友

---

7 I-JAS の言語資料にはインタビューの他に、ロールプレイ、ストーリーテリング、ストーリーライティング、絵描写課題などが含まれている。

8 検索画面で示された記号・補助記号・空白を除いた検索対象数である。（最終検索日：2022 年 3 月 15 日）

9 陳（2021）のコーパス調査では、話し手が自分の先生に対し、「彼・彼女」を使用したケースが少なかった結果が得られた。コーパスに少ない項目は日本

臺灣大學學術期刊資料庫

達」の 2 種類にした。

また、指示対象が公衆人物の場合、名前から間接的に性別情報がわかる場合も考慮し、「公衆人物」の「存在（性別情報なし）」と「存在＋名前（間接的な性別情報）」の調査文も作成した。

調査文は合計 18 問であった。なお、調査の目的を悟らせないために、照応詞が三人称代名詞以外の調査文も加え、合計 54 問のアンケートを作成した。

文脈の繋がりが自然か不自然か判定してもらうため、アンケートの回答方法に五段階評価を用いた。作成したアンケートを調査協力者の日本語母語話者に直感的に判定してもらう。1～5 の自然さ評価の割り当てはそれぞれ、1 は「不自然」、2 は「どちらかというと不自然」、3 は「どちらとも言えない」、4 は「どちらかというと自然」、5 は「自然」である。

五段階の自然さ評価のうち、3 は自然と不自然とも「どちらとも言えない」、4 は「どちらかというと自然」であるため、本研究は集計の際に、平均値が 3.75 以上の場合、より自然な用法として捉える。平均値 2.75 以下の場合を不自然な用法として「??」と記し、平均値 2.75 から 3.75 までの場合をやや不自然と判定し、「?」と記す。

教示文と調査文例は以下の通りである。

教示文：

以下の文をインタビューでの会話と想定してください。A さんはインタビュアーで、B さんは被調査者です。A さんと B さんは初対面です。会話を読んで、「　」の部分の使い方が自然か不自然かを 5 段階で判定してください。 1＝不自然　2＝どちらかというと不自然　3＝どちらとも言えない　4＝どちらかというと自然　5＝自然

語母語話者の容認度も低いかを検討するために、調査対象として設けた。

臺灣大學學術期刊資料庫

調査文の一例：

A：B さん、外国人の友達がいますか。						
B：はい。若い男性ですが、「彼」は日本語がとても上手です。						
（A さん＝インタビュアー、B さん＝インタビューを受ける人）						
	1	2	3	4	5	
不自然	○	○	○	○	○	自然

四、調査結果

（一）インタビューでの三人称代名詞の使用と性別情報との関わり

「彼・彼女」が使用される前の文脈を分析すると、以下のように「直接的な性別情報」、「間接的な性別情報」、「性別情報なし」というパターンに分けることができる。

1. 直接的な性別情報

（8）日本語母語話者：中学の時まですごい仲よかった同級生の子がいて、女の子で、最近同窓会をやるようになって、中学卒業して以来、疎遠になっちゃったんですね。（中略）もちろん**彼女**もういないし、その当時相談とか、私と一緒につるんでたらそんなことならなかったのかなとか

（JJJ02-I-03820-K）[10]

（9）日本語母語話者：私の息子が今高校一年生、今度の春、四月で二年生に上がるんですけれども、（中略）**彼**も、ずっと幼い頃からサッカーをやってまして、まあ**彼**のサッカーの試合の時にはなるべく、足を運ぶようにしています

（JJJ48-I-00540-K）

「直接的な性別情報」の分類には、女の子、男の人など指示対象の性別に関する属性を直接的に述べる場合だけではなく、息子、彼氏、夫、元彼のような、指示対象の存在から性別情報が含まれる場

[10] 例文の切り分けについて、音声音、あいづち、フィラー、記号など意味に直接影響しない項目は省くことにする。「JJJ02」は日本語母語話者の番号、「I」はインタビューの略称、「03820」は発話の流し番号である。「K」は調査協力者の発話を意味する。

臺灣大學學術期刊論文

合もある。また、2回目以降使用された「彼・彼女」は必然的性別情報が含まれているため、「直接的な性別情報」に分類した。

2.間接的な性別情報

（10）（好きなドラマの説明）日本語母語話者：福士蒼汰君がやる役の子が来て、一緒に働いてて、その大学生の**彼**の方が綾瀬はるかのことを好きになって（JJJ16-I-00600-K）

（10）は好きなドラマの主人公について説明する場面で、「福士蒼汰」という名前から、男性の役者を指していることが明らかになった。このような名前から性別が推測できる場合に関して、本研究では間接的な性別情報として分類した。

3.性別情報なし

（11）インタビュアー：なるほどねー、もうお子さんともそういう、お話もしてるんですか？（中略）
日本語母語話者：急に、私が怪我をしたり、意識がなくなって寝たきりになった時に、もう早く殺してねって、もう延命しないでねって今からゆっておけば、**彼ら**も、わかってくれるかな
（JJJ31-I-05980-K）

（12）日本語母語話者：横須賀の方、ハーフの友達がいて、**彼**が確かパーティーしてくれたのかなと思いますね（後略）
（JJJ13-I-02080-K）

（11）では文脈からお子さんが存在することがわかっていても、その性別が言明されていない（存在（性別情報なし））。

（12）は友達の存在と性別以外の属性（ハーフ）がわかったが、性別に関する情報が含まれていない場合である（存在＋属性（性別情報なし））。

インタビューを受ける日本語母語話者の発話資料にあったが61件の「彼・彼女」を性別に関する情報という観点から分析すると、それぞれの使用割合は表2のようにまとめられる。

臺灣大學學術期刊資料庫

表 2：性別に関する情報と日本語母語話者の「彼・彼女」の使用

		件数（%）
性別情報あり	直接的な性別情報	39（63.9%）
	間接的な性別情報	10（16.4%）
性別情報なし		12（19.7%）
合計		61（100%）

表 2 の結果から見ると、話し手の既知人物に対し、「彼・彼女」が使用される前に直接的な性別情報（63.9%）、もしくは間接的な性別情報（16.4%）が導入されていた場合が多かった。

つまり、話し手の既知人物に対する「彼・彼女」でも、8 割以上は聞き手に性別に関する情報を提示してからの使用であった。

（二）日本語母語話者による三人称代名詞の容認度について

課題 2 に関して、グーグルフォームで調査文を作成し、文脈の自然度を五段階で評価するように日本語母語話者に依頼した。

調査は 2022 年 2 月に行われ、合計 31 名[11]の回答が得られた。

その結果は表 3、表 4 のようにまとめることができる。網掛けの部分は本研究で考えた自然な使用を意味する。

表 3：直接的な性別情報について（友人・先生）

指示対象の種類	知識状況	性別情報なし			性別情報あり
		存在	存在＋名前	存在＋属性	存在＋属性
友人	話し手の既知人物	**4.26**	**3.87**	**4.42**	**3.87**
	聞き手の既知人物	2.90	3.16	3.03	**3.87**
先生	話し手の既知人物	3.16		3.61	**3.87**
	聞き手の既知人物	2.68		2.94	3.55

[11] 調査協力者の内訳は男性 15 名、女性 16 名である。20 代未満は 13 名、20 代は 13 名、30 代以上は 5 名である。

臺灣人博碩士論文期刊資料庫

表 4：間接的な性別情報について（公衆人物）

指示対象の種類	知識状況	性別情報なし	性別情報あり
		存在	存在＋名前
公衆人物	話し手の既知人物	3.74	**4.45**
	聞き手の既知人物	2.97	**4.16**

続いて、話し手の既知人物と聞き手の既知人物に分け、結果を説明する。

1. 話し手の既知人物

先行研究では、指示対象が話し手の既知人物である場合、一定の導入手続きを経てから、「彼・彼女」が使用できるようになると指摘されているが、本研究のアンケート調査では、指示対象の種類によって異なる結果となった。

まず、指示対象が「友人」であれば、性別に関する情報の有無を問わず、「彼」の容認度が高いことがわかった。

（13）A：B さん、外国人の友達がいますか。

B1：はい、**彼**は中国語がとても上手ですよ。

【存在（性別情報なし）】

B2：はい、うちの学校の交換留学生です。**彼**は中国語がとても上手です。【存在＋属性（性別情報なし）】

B3：はい。若い男性ですが、**彼**は日本語がとても上手です。

【存在＋属性（直接的な性別情報）】

それに対し、指示対象が目上の「先生」の場合、性別に関わる属性が導入されてからであれば、「彼」の容認度が高いが、「存在」及び、性別以外の属性のみ導入された場合、「彼」の使用に対する容認度が低い。

（14）A：B さんは、好きな先生がいますか。

B1：はい、**?彼**はとても優しいですよ。

【存在（性別情報なし）】

臺灣大學學術期刊資料庫

B2:はい。数学の先生ですが、**?彼**はとても優しいですよ。
【存在＋属性（性別情報なし）】

B3：はい、います。男性の先生です。**彼**はとても優しいですよ。【存在＋属性（直接的な性別情報）】

Hinds（1975）では、公衆人物に対し「彼・彼女」が用いられない指摘があったが、本研究のアンケートの調査結果では、「存在＋名前」の調査文に対する容認度が高いのに対し、「存在」のみ導入された調査文に対する容認度はやや低いことが示されている。それは「名前」の導入によって間接的に性別がわかるため、「彼」の容認度が高くなったと考えられる。

（15）A：B さん、好きな作家がいますか。

B1：はい、**?彼**の作品は全部読みました。
【存在（性別情報なし）】

B2：はい、東野圭吾が好きです。**彼**の作品は全部読みました。【存在＋名前（間接的な性別情報）】

話し手の既知人物であれば、直接的もしくは間接的に性別に関わる情報が導入された例文に対する「彼」の自然さの判定はいずれも自然だと判定されている。このことから、「存在」、「名前」、「属性」という導入手続きというより、「性別に関する情報」の有無が母語話者の容認度に大きく影響しているのではないかと考えられる。

2.聞き手の既知人物

次に聞き手の既知人物について検討する。先行研究では、話し手が知らない人物に対しては、「彼・彼女」を使用しないと述べられていたが、それは性別に関する情報の有無に影響されているのか。

まず、指示対象が聞き手の先生であれば、導入手続きの有無を問わず、性別情報が分かっても、「彼」を使用しない傾向が観察できた。

（16）A：B さん、好きな先生がいますか。

B：はい。数学の先生です。

A：どうして **?彼**が好きですか。
【存在＋属性（性別情報なし）】

臺灣大學學術期刊資料庫

（17）A：B さん、好きな先生がいますか。
B：はい、います。男性の先生です。
A：**?彼**は何を教えていますか。
【存在＋属性（直接的な性別情報）】

しかし、話し手が話題人物を知らない場合でも「彼」の使用が許容される場合もある。

指示対象が話し相手の友人の場合、男性か女性かがわからない段階での三人称代名詞の使用は不自然であるが、性別に関する情報が導入されていれば、話し手による「彼・彼女」の使用の容認度が高くなるという結果が得られた。

（18）A：B さん、外国人の友達がいますか。
B：はい、うちの学校の交換留学生です。
A：**?彼**は日本語ができますか。
【存在＋属性（性別情報なし）】

（19）A：B さん、外国人の友達がいますか。
B：はい、若い男性です。
A：**彼**は日本語が話せますか。
【存在＋属性（直接的な性別情報）】

つまり、聞き手の既知人物の場合でも、指示対象の種類によって、容認度が異なると考えられる。

さらに、指示対象が話し相手によって話題に出された「公衆人物」の場合は、名前が導入された後で、「彼」の使用がより自然だと判定されている（例 21）。

（20）A：B さん、好きな作家がいますか。
B：はい、います。
A：**?彼**のどの作品が一番好きですか。
【存在（性別情報なし）】

（21）A：B さん、好きな作家がいますか。
B：はい、東野圭吾が好きです。

臺灣大學學術期刊資料庫

A：彼のどの作品が一番好きですか。

【存在＋名前（間接的な性別情報）】

今回のアンケート調査の結果に限っていえば、指示対象が公衆人物の場合に、Hinds（1975）と異なる結果が示されている。それは、公衆人物の名前が分かれば、間接的に性別などの情報もわかったからだと考えられる。それに加え、公衆人物であれば、話し手にとって特定できる人物になるという可能性も考えられる。

「間接的な性別情報」に関しては、今後さらに名前から性別が推測できない調査文や、公衆人物以外の調査文を設け、比較する必要がある。

指示対象が話し手の友人（目上の人以外）の場合は、導入手続きの有無を問わず、三人称代名詞の使用が許容されている。指示対象が聞き手の友人の場合でも、性別が分かれば、三人称代名詞の使用に対する容認度が高い。

その一方で、指示対象が先生（目上の人）の場合は、三人称代名詞の使用が制限されている。指示対象が話し手の先生の場合、性別に関する情報を導入してからだと、三人称代名詞に対する容認度が高いが、指示対象が聞き手の先生であれば、導入手続きがされた後でも三人称代名詞の使用ができないという違いがある。

五、考察

（一）性別に関する情報との関わり

I-JAS の日本語母語話者のインタビューの発話資料を分析したところ、インタビューを受ける側の日本語母語話者が使用した「彼・彼女」は全て話し手の既知人物であり、その 8 割以上は直接的、または間接的な性別情報が導入されてからの使用だとわかった。アンケート調査の結果でも、「話し手の友人」について言及する場合を除き、「話し手の先生」と話し手知識の「公衆人物」に関しては、性別に関する情報が導入された後の方が日本語母語話者の容認度が高い結果が得られた。

臺灣大學學術期刊資料庫

社会的上位者（目上の人）、及び公衆人物に関しては、Hinds（1975）や高崎（1994）などでは、三人称代名詞があまり使用されないと述べられていたにもかかわらず、性別に関する情報の導入により、自然さが増すことがわかった。

特に、金水（1989）、田窪・木村（1997）などの先行研究では、会話開始時に話し手が知らない人物に対しては、「彼・彼女」を使用できないという指摘があったが、今回のアンケートを分析した結果、文脈から性別情報が導入された「聞き手の友人」や、聞き手知識の「公衆人物」に対しての日本語母語話者の容認度が高いことがわかった。このことから、聞き手の既知人物に対しても性別に関する情報の導入により、三人称代名詞がより自然だと判定されやすいことが明らかになった。

以上の結果から、先行研究が述べた「話し手・聞き手の知識状況」、「指示対象の種類」に加え、本研究が主張した「性別に関する情報の有無」も日本語母語話者の「彼・彼女」に対する容認度に影響を与えていると考えられる。

（二）指示対象の種類との関わり

日本語母語話者がインタビュー課題で使用した「彼・彼女」の指示対象について、「友人・知り合い」が「作品の登場人物」に続き多く使用されていることを報告している（陳 2021）。

本研究のアンケート調査の結果も、指示対象が「話し手の友人」の場合、性別に関する情報の有無を問わず、自然だと判断されていることが示されている。

一方で、陳（2021）の調査では、使用割合がわずか 3%の「社会的上位者・目上の人」に関して、アンケートの調査結果から、「話し手の先生」且つ性別に関する情報が導入された場合のみ、容認度が高いことが示されている。この結果は、指示対象の種類が「目上の人」の場合はそうでない人より、「彼・彼女」が用いられない先行研究の指摘を支持する結果である。

しかし、Hinds（1975）では、「公衆人物」に関して三人称代名詞

臺灣大學學術期刊資料庫

を用いないと述べられていたが、陳（2021）のコーパス分析では、8%の「彼・彼女」の使用が観察された。本研究のアンケート調査でも、話し手の既知人物か否かを問わず、名前の導入後、間接的に性別に関する情報がわかったため、「彼・彼女」の使用が自然になるといった先行研究の指摘とは異なる結果も示されている。

また、今回のアンケートの調査項目に入らなかった家族メンバーに関しては、陳（2021）のコーパス分析では、Hinds（1975）、高崎（1994）の指摘に反して、日本語母語話者がインタビュー課題で使用した16%の「彼・彼女」が家族メンバーであったことが報告されている。その内訳をあらためて分析すると、目上の家族メンバーを指した「彼・彼女」は一件のみだった。このことから、「家族メンバー」や「公衆人物」でも、話し手や聞き手にとって目上の人か否かにより「彼・彼女」の使用傾向が異なる可能性がある。この点について、更なる調査が必要であろう。

六、終わりに

本研究は、性別に関する情報の有無という観点から、インタビュー発話資料での日本語母語話者による「彼・彼女」の使用傾向について分析し、さらに、自然さの五段階判定アンケートを用い、日本語母語話者の三人称代名詞に対する容認度について調査を行った。調査の結果、以下が明らかになった。

課題1：インタビューを受ける側の日本語母語話者が使用した「彼・彼女」は全て、話し手知識の話題人物であることに加え、収集された「彼・彼女」の前の文脈を分析したところ、「存在」と「属性」による直接的な性別情報が63.9%、「名前」などにより間接的な性別情報が16.4%占めていることから、8割以上は性別に関する情報が含まれていることがわかった。

課題2：性別情報の有無を問わず、三人称代名詞の容認度が高い「話し手の友人」を除き、指示対象が「聞き手の友人」と「話し手の先生」の場合は、性別に関する情報が導入されれば、容認度

臺灣大學學術期刊資料庫

が高くなることが明らかになった。また、話し手もしくは聞き手が導入した「公衆人物」に関しては、名前により間接的に性別情報がわかれば、三人称代名詞の容認度が高くなる結果が得られた。それ以外の場合は三人称代名詞の使用がやや不自然であり、特に、「聞き手の先生」に対し、性別に関する情報が導入されていても、依然として容認度が低いことがわかった。

本研究の結果に限って言えば、先行研究が指摘した話し手・聞き手の知識状況だけでなく、指示対象が目上の人か否か、また性別に関する情報があるか否かが日本語の三人称代名詞の使用と許容に影響を与えたことが明らかになった。

しかし、今回のアンケートは「先生」と「友人」しか区別しておらず、調査文も限られているため、特定の文脈による影響があることも否めない。また、名前による間接的な性別情報は公衆人物以外の場合も通用しているかは不明である[12]。さらに、今回の調査方法は統計的な手法を用いていないため、主観的な結果解釈に陥る可能性も残されている。以上を踏まえて、今後の課題にしたい。

【付記】本研究は国立国語研究所のプログラムによる成果『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』および検索システムを利用して行われたものである。また、アンケート調査にご協力いただいた皆様と、原稿に丁寧なご指摘をいただいた審査委員の方々に心より御礼申し上げます。

[12] 名前から性別情報がわからない「先生」に対して、三人称代名詞の容認度を、本調査とは別に追加アンケートを用い、20 名の日本語母語話者に回答してもらった結果、話し手の既知人物も聞き手の既知人物も、「彼」の使用が不自然という判定結果が得られた。しかし、調査協力者が本調査と一部しか重なっていないため、ここでは結果のみ記すことにする。

臺灣大學圖書館版權所有

【参考文献】

岩田一成(2013)『日本語数量詞の諸相―数量詞は数を表すコトバか』くろしお出版

神崎高明（1994)『日英語代名詞の研究』研究社出版

金水敏（1989)「代名詞と人称」北原保雄編『講座日本語と日本語教育第 4 巻日本語の文法・文体（上)』明治書院、pp.98-116

迫田久美子（2020)「I-JAS 誕生の経緯」迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬（編著)『日本語学習者コーパス I-JAS 入門：研究・教育にどう使うか』くろしお出版、pp.2-13

迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子（2016)「多言語母語の日本語学習者横断コーパス International Corpus of Japanese as a Second Language」『国語研プロジェクトレビュー』第 6 巻 3 号、pp.93-110

田窪行則・木村英樹（1997)「中国語、日本語、英語、フランス語における三人称代名詞の対照研究」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版、pp.137-152

陳嬿如 (2021)「インタビューにおける日本語母語話者による三人称代名詞の産出について―話し手と聞き手の知識と指示対象の特徴から分析して―」『靜宜語文論叢』第 13 巻第 1 期、静宜大学外国語学院、pp.1-22

日本語記述文法研究会 (2009)『現代日本語文法 7: 第 12 部談話　第 13 部待遇表現』くろしお出版

Hinds, J.(1975) Third person pronounce in Japanese. In Fred C. C. Peng ed.. *Language in Japanese society: Current issues in sociolinguistic*. University of Tokyo press. pp. 129-157

臺灣大學學術期刊資料庫